

熊本県 南阿蘇村 南阿蘇中学校避難所

板林 恵子（稲城市立病院）

担当業務の内容

災害支援ナースは大規模災害が発生した際に、被災地での支援活動を行っています。今回、熊本大分地震が発生し東京都看護協会から支援要請を受け、稲城市立病院から2名の災害支援ナースが、平成28年4月29日から5月2日まで、熊本県南阿蘇にある南阿蘇中学校の避難所に派遣されました。主な業務として、被災者の健康管理を中心に、インフルエンザや感染性胃腸炎等の感染症を発症した被災者の健康管理、24時間いつでも健康サポートできるようにブースを設置しての夜間の健康管理も行いました。また、避難所に入らず、車中泊をされている方も多くいましたので、その方々の健康管理として、主にエコノミー症候群の予防について、パンフレットの配布やストッキングの装着方法等を説明し予防に努めて頂くよう、朝晩ラウンドしました。



苦労したこと・工夫したこと

災害支援ナースは、被災地での活動をする際に、現地のリアルタイムな情報がほとんどない中で派遣されます。全ての情報は現地に着いてからとなり、前スタッフからの引き継ぎもないため、1日目は移動と情報収集で終わってしまいました。現地では保健師と情報交換しますが、保健師も被災者の一人であり、被災後1日の休みもなく夜遅くまで支援活動を続け、疲労困憊していました。少しでも業務が軽減できるよう業務整理を行ってもらい、一部の業務を代行して活動するなど現地スタッフの支援の重要性も感じました。

印象的なエピソード

避難所では食事の提供に被災者である学生さん達が積極的にボランティア活動を行っていました。被災から2週間過ぎて、避難所スペースに清掃が一度も入っていない事が分かり、環境清掃を提案した所、その学生さん達が朝からモップをもって清掃をしていました。若い世代が率先して、苦しい時に助け合っている姿をみて深く感銘しました。

所感

南阿蘇地区で中心的な医療を行っていた病院がその機能を失い、現地の方はさぞ不安に思われたと思います。その中で多くの医療機関や医療団体から災害支援に加わり、活動していることを現地に入り知りました。被災地の医療を支える集団の一つとして、災害支援ナースの活動が、その一助になっていれば幸いです。被災者の支援活動としては、まだまだ課題はありますが、今回の活動を振り返りながら、今後も大規模災害が発生した際には、この経験を生かして災害支援ナースとして活動を行っていきたいと思います。

最後に被災地の一日も早い復興を願いつつ、災害支援ナース活動の報告を終わらせて頂きます。